

2017『日本カトリック平和旬間』賛同企画

平和を祈る集い

8月11日(金曜日)〈山の日〉

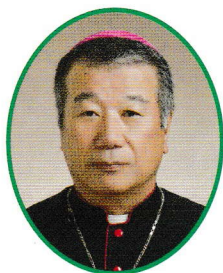
地球という 共通の家に暮らす すべての人へ

日本カトリック司教団メッセージ

『回勅 ラウダート・シ』

『今こそ原発の廃止を—日本のカトリック教会の問いかけ』

2017 August 11 Friday



濱口 末男 司教(大分教区)



高見 三明 大司教(長崎管区)



宮原 良治 司教(福岡教区)

福岡カテドラル・センター

カトリック大名町教会 2階聖堂

第一部 講演会 13:00~15:00

あいさつ 宮原 良治 司教
導入 濱口 末男 司教
講話 瀬本 正之 師 「回勅 ラウダート・シ」翻訳者
原田 雅樹 師 「今こそ原発の廃止を—」執筆、編集

よびかけ 高見 三明 大司教

福岡教区内取組の案内 (わたしたちの活動紹介)

第二部 平和祈願ミサ 15:15~16:15

主催: 福岡司教区 共催: 社会司教委員会、長崎教会管区

会場【福岡司教座聖堂】福岡カテドラル・センター カトリック大名町教会 〒810-0041福岡市中央区大名2丁目7番7号

お問合せ: 090-6775-4268(青木) 多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

事務局

社会福音ネットワーク・福岡 / 福岡地区信徒使徒職協議会

平和を祈る集い

地球という
共通の家に暮らす
すべての人へ

日本カトリック司教団メッセージ

『回勅 ラウダート・シ』

『今こそ原発の廃止を— 日本のカトリック教会の問いかけ』

『回勅 ラウダート・シ』

瀬本 正之師

(イエズス会司祭、『回勅 ラウダート・シ』翻訳者)
上智大学神学部教授

「教皇フランシスコが2015年5月に公にされ、世界中で大きな反響を呼んだとも言われる『回勅 ラウダート・シ』の概要説明を、その邦訳に参加した者の一人として、試みたく思います。

「無関心でいてよいことはこの世には何もない」との信念の吐露から始まる同回勅の邦訳に携わりながら、わたしは、「環境問題への取り組みは信仰上の責任に属しており、信仰の恵みを賜っているわたしたちキリスト者こそより大きな一貫性をもってその務めを果たしうるのだ」との認識を新たにさせられ、励まされました。日常的な話題にもなりつつある地球温暖化による気候変動や生物多様性の減少による生態系の攪乱等を含む環境問題の現実(生態学的危機)を直視し、〈創造の福音〉の光の照らしに身をさらすことによって痛感させられるわたしたち人間の根源的な元凶性、それを正直に認めその責任を進んで引き受ける〈すこやかな謙遜さ〉と〈喜ばしい節欲〉、そうした根本姿勢を旨とする新たな生き方・歩み方を育てくれる〈ケアの文化〉を生み出すために教皇さまが提唱なさる〈総合的な(インテグラル)エコロジー〉、そのメッセージの主旨を多少なりともご紹介できれば、幸甚です。」

『今こそ原発の廃止を— 』

原田 雅樹師

(ドミニコ会司祭、執筆、編集者の一人)
清泉女子大学キリスト教文化研究所教授

「2011年11月11日、日本司教団は司教団メッセージ「いますぐ原発の廃止を—福島第1原発事故という悲劇的な災害を前にして」を発表しました。このメッセージの社会的、科学的、技術的、神学的根拠を明示するため、およそ2年半の執筆編纂事業を経て、2016年10月、『今こそ原発の廃止を— 日本のカトリック教会の問いかけ』が出版されました。

同書は、福島第一原発事故による被災地の現状、原子力技術の歴史、技術的限界を説明し、カトリック神学のビジョンからこれらを見直し、世界に対して原子力技術の継続の是非を問いただします。当然ながらこのビジョンは、編纂期間中の2015年5月に公布された回勅『ラウダート・シ』を大きく反映するものとなりました。同書発行の一ヶ月後、日本司教団は、同書をうけ、二つ目の脱原発司教団メッセージ、「地球という共通の家に暮らすすべての人へ原子力発電の撤廃を—福島原子力発電所事故から5年半後の日本カトリック教会からの提言—」を、世界に向けて発表しました。

同書の出版からはやくも一年が経とうとしています。日本は原発の再稼働を急いでいます。人間の原子力技術は、私たちがともに暮らす家、地球に何をもたらしたのか。ここで、同書で触れなかつたいくつかのことを含め、カトリック神学のビジョンからお話したいと思います。」

12:00~

カトリック大名町教会 1階講堂

環境問題・原発問題に取り組む福岡教区のグループの活動紹介(パネル等展示)
くつろぎカフェOPEN終日同時進行 小聖堂
震災のための祈りのリレー